

東京 IPO 特別コラム

2018年2月13日 Vol.111

波乱相場の中で昨年12月のIPO銘柄は概ね株価堅調

円高に続きNYダウの大幅調整に端を発した日本の株式相場の波乱商状が直近IPO銘柄にも影響しているかと感じられます。そうした中で2018年のIPOが今月23日のMマート(4380)から始まりますが、全体相場がやや調整色を強める中でIPO銘柄に関心をお持ちになる皆様の運用スタンスはいかがでしょうか。

昨年12月は12日の一家ダイニングプロジェクト(9266)から22銘柄がIPOしてきましたが、その初値から2月9日までの平均騰落率は+17.4%と総じて堅調な成果を収めてきました。各IPO銘柄に単元株100株を初値で投資したとすると全投資額843万円は2月9日現在で1053万円となり24%余りの運用成果となっていることとなります。それを市場別にみると流動性に難のあるマザーズ9銘柄は410万円が417万円と小幅の増加に留まりましたが、東証1部6銘柄が140万円から173万円となり23%余りの成果を収めたほか、JASDAQ3銘柄は220万円から389万円と76%もの成果が得られたようです。初値から2月9日までの期間で最大の値上がりを示したのは東京プロ市場からJASDAQに市場変更した歯科医向け通販の歯愛メディカル(3540)で95.5%もの上昇を示しています。同社は厳密な意味ではIPOではないのかも知れませんがプロ市場から昇格した初の事例となり、後に続く東京プロ市場銘柄にも期待が高まる可能性があります。これに続くのが住宅リフォームビジネスのカチタス(8919・東証1部)です。同社株の初値は1665円で公開価格1640円に対して1.5%の上昇に留まりましたが、その後は2月2日の高値3450円まで急騰を演じました。また、画像処理検査装置メーカーのヴィスコ・テクノロジー(6698・JQ)は初値から72.4%の上昇となっています。同社株は公開価格4920円に対して初値が1万5000円となった上、高値は4万3900円まで2.9倍と人気を集めました。流石にその後は調整傾向にあります。一方では、直近の波乱相場の中でインターネット関連事業を展開するイオレ(2334)が初値から37.4%の値下がりとなったほか、インターネットメディアのアドテクノロジー事業を展開するジーニー(6562)も同じく33.4%の値下がりをしており、多少明暗が分かれています。

波乱相場の中でも比較的堅調な株価推移が見られる12月IPO銘柄を横目に今月から3月にかけてのIPO銘柄(Mマート、ジェイテックコーポレーション、SERIOホールディングス、神戸天然物化学、日総工産)にも皆様の関心が向かいつつあるのかも知れません。年初から新規IPOが途絶えてきましたが、IPO銘柄に関心をお持ちの皆様とともに2018年IPO銘柄の活躍ぶりを見守って参りたいと存じます。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)